R7年9月9日

海の子学園　入舟寮の子ども支援について

NHKハートネットTVから
安心感の輪の中で アタッチメントと入舟寮のこどもたちから

社会福祉法人
海の子学園

IRIFUNERYO

インスタ・Xフォローお願いします。日々の施設の様子を投稿してますの。(^▽^)/

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞには入舟寮の事が詳しく載っています。

https://uminoko.org/

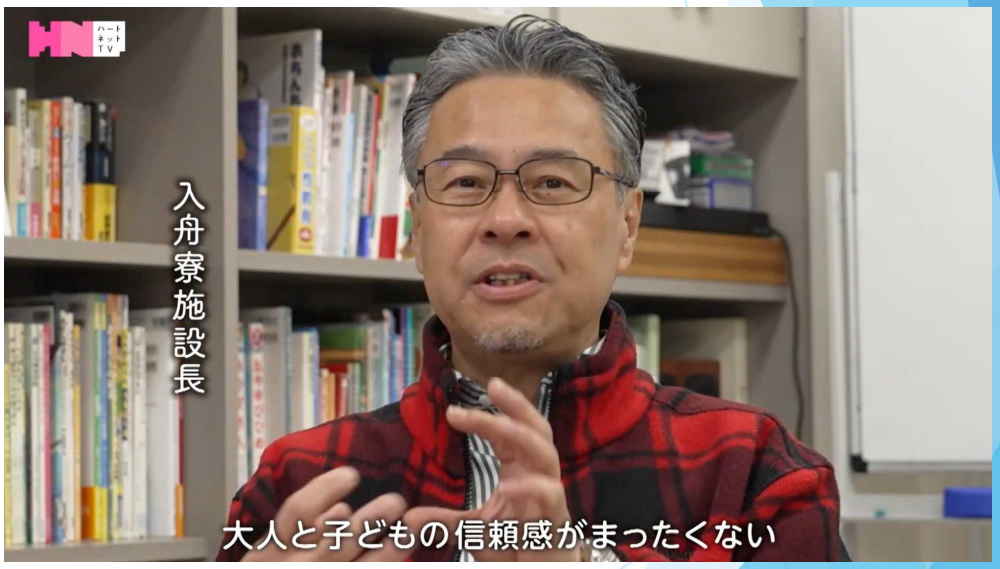
1.安心感の輪の中で アタッチメントと入舟寮のこどもたち

児童養護施設「海の子学園 入舟寮」には、現在2歳から18歳までの子どもおよそ60人が暮らしています。10年ほど前は、窓ガラスが割れたり、家具が壊れたりするなど、施設の中は荒れていました。
乱暴な行動や言葉の裏にある子どもの気持ちを理解するために、入舟寮では職員が「アタッチメント」という発達心理学の理論を学びました。アタッチメントを土台にした子どもとの関わりで、子どもはどのように変わったのか。2024年2月から夏にかけて、入舟寮を取材しました。

この動画はNHKビデオライブラリーでの貸し出しが可能です。
最後のページに詳細がありますので、是非ご覧ください。

大阪湾にほど近い住宅地の一角にある児童養護施設「海の子学園 入舟寮」は、2024年で創立75年を迎えました。現在、さまざまな事情で親と一緒に暮らせない子どもおよそ60人が、ここで暮らしています。子どもたちは「言葉にはできない不安」を抱え、いらだちが時に抑えきれなくなることもあります。10年ほど前は、手が付けられないほどに子どもたちが荒れ、施設の運営が危機的な状況にあったと、入舟寮施設長の城村威男（じょうむら・たけお）さんは言います。

城村さん：「僕が施設長になったときは、もう大荒れで、ガラスを割ったり、いすを放り投げて壊したり、毎日子どもがやんちゃしてました。
信頼関係が全く築けていないと感じましたね。職員は『ダメ、あかん、やめろ』、子どもは『うざい、ほっとけ、死ね、殺すぞ』。ホンマに、このやりとりなんですよ。
そんなんで、子育てができるわけがない」

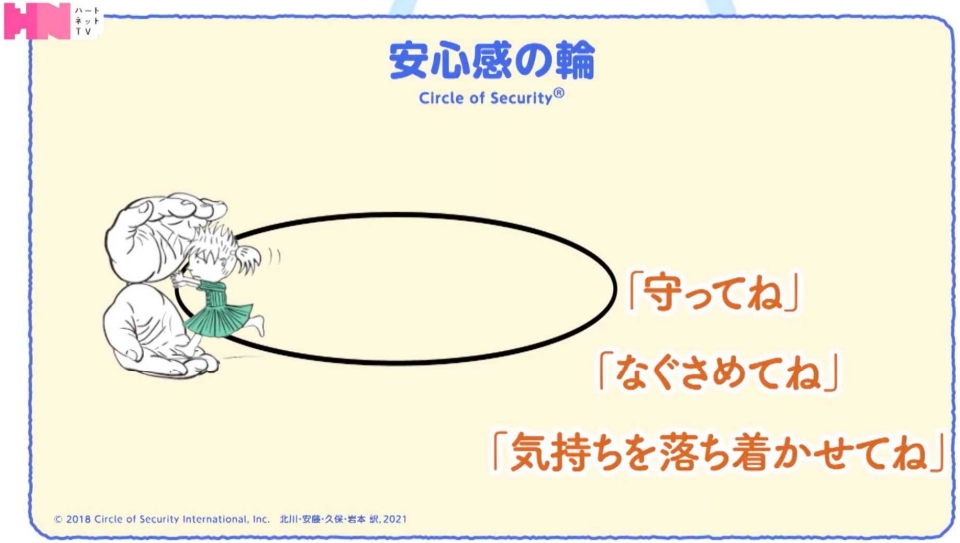


暴れたり、暴言を繰り返す子どもたちの行動や言葉の裏には、どのような気持ちが隠されているのか。
城村さんは、子どもたちの本音に近づくのは決して容易なことではないと話します。

城村さん：「子どもたちは自分の思いを言葉で表すのが下手なんです。特に、入舟寮の子どもは、小さいころから、親に自分の話を聞いてもらっていない。一般的な家庭だと、子どもが話すことを親は一生懸命聞いてあげるわけです。そこで、子どもがうまく言い表せられないことを、大人が『それって、こういうことやろ？』と気持ちの代弁をすることで、子どもが成長していくんですよね。 でも、入舟寮の子どもたちは、その経験がないので『うざい』『しんどい』といった言葉しか言えないんです。そう言われると、大人も『何がうざいねん！』と返しちゃうわけですよ」

2.特定の誰かにくっつくことで安心感を得る「アタッチメント」

施設を立て直すため、子どもとの信頼関係を築こうと、入舟寮ではアメリカで親子関係の改善に効果が認められた「安心感の輪」子育て支援プログラムを2016年から研修に取り入れています。そのプログラムで重要になるのが、「アタッチメント」という理論です。



「安心感の輪」子育てプログラムの教材より

「アタッチメント」とは、誰か特定の人にくっつくことで「不安を和らげて安心したい」という本能的な欲求のことを指します。子どもは、不安や恐怖を感じたとき、安心感を得るために、誰かにくっつこうとするのです。研修では、日々の子どもたちとの関わりの中で職員が感じる悩みや課題を共有しながら、アタッチメントを理解し、子どもとの接し方を学んでいきます。

2023年に入舟寮に来たばかりのヨシヒコ君（仮名、7歳）は、当初は話も聞かず、注意されると大声で叫んだり、暴れたりして、大人を寄せ付けませんでした。しかし、今では担当職員の塩見彩（しおみ・あや）さんにくっついて離れません。みんなが遊んでいても、ヨシヒコ君は、掃除や洗濯をする塩見さんのところへ行き、お手伝いをすることもあります。

塩見さん：「ヨシヒコ君とは、今アタッチメントを築いている最中です。ヨシヒコ君は、家庭環境的にネグレクトを受けてきました。親に手をかけてもらえなかった分、今必死に取り戻そうとしているのかな、と。そばで自分のことを見ていてほしいんだと思います」

3.国の「個別化」方針に従うも、子どもとの関係が希薄に･･･
入舟寮がアタッチメントの研修を取り入れるようになった背景には、日本の社会的養護を取り巻く環境の大きな方針転換がありました。

戦後間もないころ、船上生活（※1）をする子どもを預かるために、入舟寮は設立されました。集団生活を充実させるため、運動会など、暮らしの中に様々な行事を取り入れてきました。
2012年、国は社会的養護が必要な子どもたちを、よりきめ細やかにケアするために、「個別化」の方針を打ち出しました。それを受けて、入舟寮では集団的な行事を取りやめ、子どもを個別に対応する、少人数での養育を目指すことになりました。しかし、方針が出された後、しばらくの間は「個別化」に対応するための措置費の増額などがなかったこともあり、職員を増やすことができず、かえって子どもと交わる時間が減り、寮の中での人間関係が希薄になってしまいました。当時のことを、職員の西出誠（にしで・まこと）さんと、城村さんに伺いました。

※1　船上生活……船や、水上に建築された家屋で生活している人のこと。日本では、明治以降に規制が厳しくなり、昭和40年ごろには消滅したと言われている。

西出さん：「子どもにとって、職員は何もしてくれない人になってしまったんですね。構ってくれない、遊んでくれない、一緒に行事もしてくれない。職員は大人の都合でしか動かない人というところから、子どもにどんどん不信感が募っていったのかと」

城村さん：「毎日何か壊す男の子がいました。その子は泣きながら、『なにか悪いことせんと先生見てくれへんもん』って叫んだんです。大人が、子どもの訴えを聞いている暇や余裕がないために、ちょっとしたズレが大きなズレになってしまったんですね」

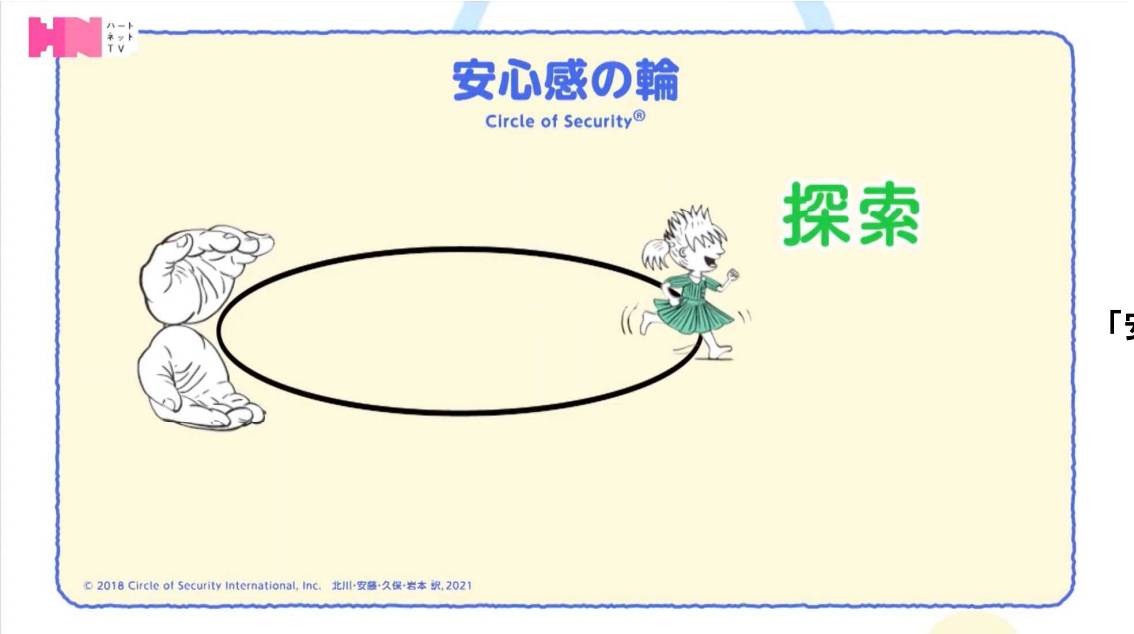
アタッチメントの研修を始めて8年たち、子どもたちにも変化が見られるようになりました。

西出さん：「『今こういう気持ちで、しんどいんやな』『これに腹立ってんねんな』ということを、職員が理解していることを示すと、落ち着くケースが多くなりました」

塩見さん：「今までだったら、その行動だけを見てしまっていたところを、その行動の裏にある気持ちを察しようという考え方が身についたのは、アタッチメントを学んだからだと思います。『これが嫌だったの？』と、いろんな選択肢を与えて聞き続けて、子どもの気持ちが分かったら、『それは嫌だったね』といって話を聞くと、どんどん落ち着いてきます」

4.「アタッチメント」は子どもの自立にも関わる

アタッチメントは不安や恐怖を和らげるだけでなく、子どもの発達においても重要な意味があります。



「安心感の輪」子育てプログラムの教材より

充分に安心を得られた子どもは、大人の手の中（安心の基地）を離れ、「探索」に出ることができます。見守られながら探索することで、自分の世界を広げるのです。子どもは、「安心」と「探索」を繰り返しながら成長し、自立に向かっていきます。

高校2年生のアキラさん（17歳）は、今まさに、安心の輪を広げているところです。アキラさんは、生まれて間もなく乳児院に預けられ、2歳のときに入舟寮にやってきました。担当職員の上田さんと出会ったのは2年前のことです。アキラさんは中学3年生で、学校に行けない日が続いていた時期でした。

上田さん：「私が入舟寮に入って2年目なんですけど、1年目の終わりぐらいから、アキラちゃんは私を見つけたらくっついてくるようになりました」
アキラさん：「自分では『不安』っていう気持ちしか分からないんですけど、上田さんと話すことで頭が整理されて、なんで不安なのかが分かったり、『こういうふうにしたら？』と不安を和らげる工夫も言ってくれる。上田さんがそばにいたら、自分が安定するんです。今まで、人に興味がありませんでした。でも、上田さんとずっと一緒にいて、すごいなって思って。上田さんは子どもの心情とか、家の事情とかも分かろうとしてくれました。上田さんを見ていて、『これぐらい頑張るのが普通なのかな。だとすれば、自分は頑張ってなさすぎるな』って思えてきて。楽なことだけじゃなくて、ちょっとしんどいこともしようと思って、今は学校にちゃんと行って、バイトもやってます」

これまでの2年間、アキラさんと上田さんは親密な関係を築いてきましたが、施設内の人事異動で、上田さんは小規模ホームで小学生の女の子たちと暮らすことになりました。異動のことを知ったアキラさんは、上田さんに対して不機嫌な態度を示すようになりました。

上田さんがほかの子どもの相手をしていると、「もういい」と言ってふて寝しはじめたアキラさん

上田さん：「今まで、学校から帰ってきたら私が居て、何気ない話をすることで落ち着いていたので、それができなくなることに、葛藤があるんだと思います。学校から帰ってきたら誰と話をしたらいいのかわからない。そうなると学校も頑張れないから、行かないみたいなことになってしまう可能性はあるんじゃないかと思います」

そんな懸念がありつつも、上田さんが小規模ホームに異動し、3か月が過ぎました。上田さんが異動した直後は、帰りが遅くなる日が続いたと、アキラさんは話します。

アキラさん：「入舟寮にいることが、おもしろくなくて。最初のほうは、友達と夜10時ぐらいまで遊んでたりしていました」

それでも、アキラさんは上田さんと交わした「学校には休まずに通うこと」という約束だけは、守り続けていました。現在は、上田さんと交換日記をして日々の出来事を共有しています。

アキラさん：「最近は、ふと『上田さんと1週間会ってないな』と思えるほど、離れていることに慣れてきたと感じています」

職員の奥澤恭子（おくざわ・きょうこ）さんは、ここ最近でアキラさんは落ち着きつつあると話します。

奥澤さん：「つっけんどんなときもあるんですけど、昨日の夜に部屋に呼ばれて、2人で話をしました。進路のことなども話してくれましたね。気持ちをちゃんと出してくれているので、『このままで大丈夫だな』と思いました」

上田さん：「アキラちゃんが私を頼ることは全然いいんですけど、その先が、私以外にもあればいいなというのが希望です。頼り先がたくさんあることが、いちばんいい関係かなって思います」

5.安心感の輪の中で育む　自分と人を信頼する力

2023年12月、国は子ども政策の方針を示す中で、「社会的養護を必要とする全てのこどもが、養育者との愛着関係を形成し、心身ともに健やかに養育される」とし、社会的養護を受ける子どもたちのアタッチメントの重要性を強く打ち出しました。

発達心理学を研究している東京大学大学院教育学研究科教授の遠藤利彦（えんどう・としひこ）さんも、安定的なアタッチメントを築くことが、その後の人生の基盤になると指摘しています。

遠藤さん：「自分の気持ちを打ち明けて、誰かから受け入れてもらえるという経験を積み重ねる中で、『自分は愛される価値がある』『人を信じていいんだ』という感覚を作り直すことができれば、多くの子どもたちはその後の人生を健全に生きていけるのではないかと思います。自己信頼、他者信頼は、幸せの根幹に関わるものとして、とても重要なファクターです。そして、それらに最も深く関わるものとしての『アタッチメント』に注目が集まっていると言えます」

小学6年生のタケシ君（仮名・12歳）は、2歳のころから入舟寮で暮らしています。担当職員の濱田希心（はまだ・こころ）さんと一緒にお風呂に入っているときに、思い切って自分の生い立ちについての疑問を打ち明けました。

タケシ君：「なんで入舟寮に来たのかとか、どこで生まれたかとか、お母さんはどんな人なのかとか。いろんなことを知りたいと言いました」

児童養護施設では、親と暮らせない理由を伝えることに慎重な立場をとることが多いのですが、入舟寮では本人の意思を尊重してきました。

濱田さん：「知りたいという気持ちが強くなった段階で伝えておかないと、例えば進学や就職など、社会的に自立するときに親のことを伝えてしまうと、しんどいことが増えすぎてしまって、デメリットの方が大きくなってしまいます。アタッチメントがあって安心できる場所や人ができている今、親のことを話せば、私たちも本人の気持ちをしっかりカバーすることができるんじゃないかと思います」

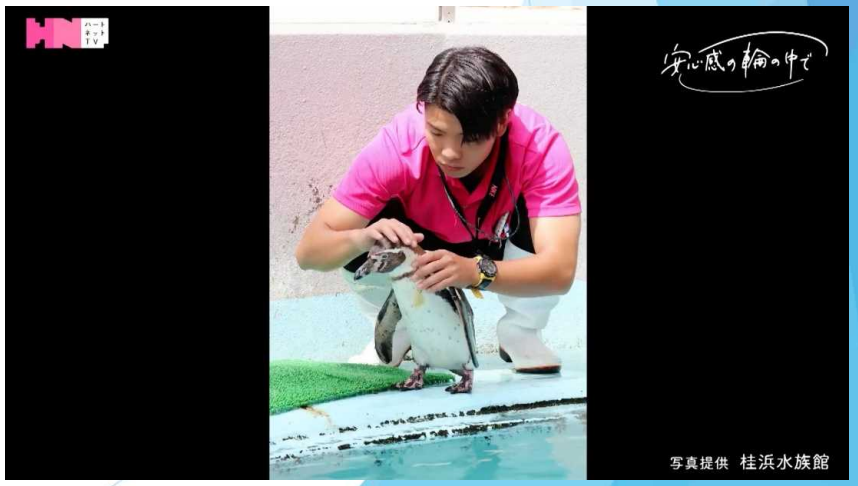
タケシ君は、お母さんと3回だけ会ったことがあり、そのうちの1回は入院中の病室でした。「お母さんは病気の治療が終わらないから、一緒には暮らせない」と聞かされていました。入舟寮に来ることになった経緯を知るため、児童相談所を訪ね、濱田さんたちが見守るなか、タケシ君は聞きたかったことを自分で質問しました。

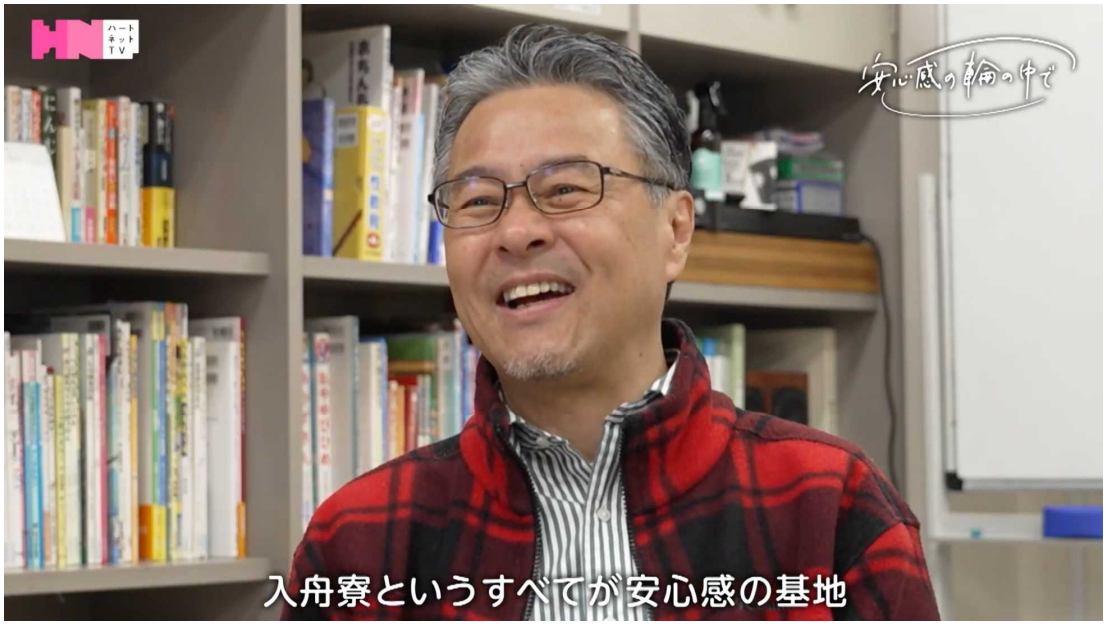
タケシ君：
「ちょっとびっくりした。
本当は、僕は車で生まれてた」

その2日後、タケシくんが2歳まで育った乳児院に行って、アルバムを見せてもらいました。アルバムを見ながら、1歳10か月のころにズボンを部屋で脱いで嬉しそうに走り回っていたり、入舟寮に行くときには泣いてお別れしたりしたことを教えてもらいました。
タケシ君：「自分が言って、大人が動いてくれた。それで、ここまで話をしてくれるのがうれしい」

入舟寮を巣立ち、大人になった今も、時々訪ねて来る人もいます。卒園生のユウダイさん（23歳）もその一人で、子どものころの夢を叶えて、高知県にある水族館の飼育員になりました。

卒園したあとも、いつでも温かく迎えてくれる入舟寮に、「あまりにも温かすぎて、この温かさがいつまで続くんかなって心配になります」と、ユウダイさんは話します。





城村さん:「卒園生には『社会へ出ても、遠慮なくいつでも相談に来ていい』と伝えています。僕が子どもたちに言っているのは、『将来的に渡って入舟寮は安全基地だって感覚を持っておいてくれ』と。子どもたちにとっては、入舟寮が家なんです。寮から自立して一人暮らしをはじめた子たちが、しんどいことがあるとすぐに言ってきてくれたり、相談に来てくれたりする。入舟寮っていう建物じゃなくて、そこにいる人も全部ひっくるめて、入舟寮のすべてが『安心の基地』だと思っています」

NHKﾋﾞﾃﾞｵﾗｲﾌﾞﾗﾘｨ

NHKビデオライブラリー
での貸し出しが可能です。
ぜひご覧ください。

入舟寮で検索(^▽^)/

NHK福祉ﾋﾞﾃﾞｵﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ「入舟寮」で検索してください